

ピースボート地雷廃絶キャンペーンP-MAC 2017年度活動報告書



ピースボート地雷廃絶キャンペーンP-MACとは

地雷廃絶を目指し、NGOピースボートの一プロジェクトとして1998年に設立しました。平和、人権、環境、国際交流などをテーマとしたピースボートの地球一周クルーズで、カンボジアや旧ユーゴスラビアなどを訪れ、深刻な地雷被害の状況を知ったことが設立のきっかけです。世界では、2016年の1年間にわかっているだけでも8,605人が地雷や不発弾による被害にあいました。たとえ戦争が終わったと報道されていても、その地域に暮らす人々にとって、地雷がある限りまだ戦争は終わっていません。P-MACは発足以来、地雷廃絶を目指して、地雷除去や被害者への支援、地雷問題を伝える活動を続けています。

カンボジアから地雷をなくそう 100円キャンペーン

カンボジアでは1993年頃から地雷除去活動が始まりましたが、今も多くの地雷が残されています。1990年代には毎年数千人の地雷や不発弾による被害者が報告されていましたが、都市部などの人口が多い場所の地雷除去が進んだことで、2016年にははじめて被害者数が100人を切りました。2017年の1年間では58人が被害にあっています。カンボジア地雷対策センター(CMAC)の情報によると、2017年末までの約25年間で1,545平方キロメートルの土地が安全になりました。一方で今も1,970平方キロメートルが地雷や不発弾による汚染地だと推測されています。

地雷除去には膨大な時間と労力がかかります。しかし、地雷除去にかかるコストは1㎡あたり約100円です。そこでP-MACでは、募金活動「カンボジアから地雷をなくそう100円キャンペーン」を展開しています。集まった募金は現地地雷除去団体「カンボジア地雷対策センター(CMAC)」へ送り、地雷除去がおこなわれています。

2017年度 100円キャンペーン募金報告

【募金総額】

| | |
|-------------|-------------|
| 2017年度の募金総額 | ¥1,723,343- |
| 2016年度より繰越金 | ¥ 641,398- |
| 合計 | ¥2,364,741- |

※以上の募金のうち、1,674,870円はP-MACが支援を続けている村の1つであるコーケー村の地雷除去に使われます。

<コーケー村について>

カンボジア北部、プレアヴィヘア州に位置するコーケー村は、921～941年まで都が置かれた古都の村です。世界遺産であるアンコールワットなど多くの寺院が建設されカンボジアが繁栄を極めたアンコール時代にわずか20年ほど都となったため、コーケーは「幻の都」とも呼ばれています。今でも多くの遺跡が残されていて、近年は遺跡観光に訪れる観光客も増えています。

しかし内戦中には多くの地雷が埋められ、今もその地雷が村人の生活に大きな影響を与えています。1980年代、ベトナム軍やカンボジア政府軍、ポル・ポト軍などによって地雷が埋められ、また戦闘が起こったことで多くの不発弾も残されました。コーケー村の農地や宅地、そして遺跡周辺にも地雷が残っていることが判明しています。



ジャングルの中に家や田畑が点在している

<コーケー村での支援>

2005年、P-MACはコーケー村の地雷除去とその土地への小学校建設を支援しました。その後も通学路となる道路や保健所、村に残る遺跡周辺の地雷除去を支援してきました。同時にスタディーツアーで村を訪れて、村人との交流や小学校での教育支援を続けています。

今回地雷除去する土地は、すでに村人が農地として耕したり生活の中で使っている場所でもあります。危険な土地であっても他に安全な田畑をつくることができなければ、地雷原を耕して生活するしかありません。人々が地雷被害に遭わないように一刻も早く地雷除去が必要です。

<地雷除去支援概要>

場所 カンボジア プレアヴィヘア州コーケー村 (Koh Ker Village, Srayong Commune, Kulen District, Preah Vihear Province)

期間 2018年5月1日～7月31日

費用 1,674,870円 (15,028米ドル)



コーケー小学校で子どもたちと交流

「ピースポート・スナハイ小学校」手洗いプロジェクト

<ピースポート・スナハイ小学校>

P-MACがスナハイ村（プレアヴィヘア州）で地雷除去と学校建設を支援し、2016年10月に完成した「ピースポート・スナハイ小学校」には、現在200人以上の子どもたちが通っています。学校は安全になりましたが、村には今も地雷が残り、外からの支援もほとんどないために様々な物資が不足し、インフラ設備も整っていません。小学校では文房具や教科書など様々な物資が不足しています。

そのような状況の中、先生たちは子どもたちの学びや安全のために様々な工夫を凝らして学校を運営しています。学校の授業だけでなく、学校をきれいに保つための掃除やゴミ拾いを子どもたちとおこなったり、手洗いの習慣を身につけられるようにトイレや遊んだ後には手を洗うよう呼びかけています。日本では当たり前のようにおこなっていることですが、カンボジアの特に貧しい農村部ではこのような衛生問題は後回しになりがちです。家や学校の周辺にゴミが散乱している場面に出くわすことも珍しくありません。また、清潔に保つ意識がないことは、身体の不調や病気にもつながります。



3教室ある校舎とトイレ、広い運動場がある

<手洗いプロジェクトがスタート>

ピースポートはLUSH（株式会社ラッシュジャパン）と協力して、世界で必要とされている場所に石けんなどLUSHの商品を届け、ハッピーの輪を広げようという「ハッピーシェア地球便」プロジェクトをおこなっています。その一環として、2017年度からはスナハイ村の子どもたちの健康のため、継続的に石けんを小学校に届けることが決まりました。

2017年8月26日に第95回ピースポート「地球一周の船旅」内でおこなったスタディーツアーの参加者がピースポート・スナハイ小学校を訪れ、石けん350個を引き渡しました。この日の為にツアー参加者は、子どもたちが楽しみながらきちんと手洗いができるよう、手洗いの歌をつくり準備をしてきました。子どもたちと交流した後、子どもたちに手洗いの歌を教え、全員で石けんを使って手洗いをしました。



子どもたちと歌いながら手洗い

<子どもたちの健康のために>

カンボジアの5歳未満児死亡率は1,000人あたり31人（日本は3人）です。ワクチンで予防可能な病気や下痢が主な死亡原因です。また下痢になった時に経口補水塩による適切な治療を受けられる子どもは35%、カンボジア農村部で衛生的なトイレを使えるのは39%です。カンボジアの子どもたちが置かれている衛生環境は深刻です。（データは「世界子ども白書2017」より）

スナハイ村でも子どもたちが体調を崩すことは少なくありませんが、周辺に医療サービスが受けられる場所はありません。村の子どもたちが健康でいられるよう、また子どもたちから大人たちにも衛生管理の大切さを伝えていけるよう、小学校の先生方と協力してこのプロジェクトを進めていきます。

職業訓練を受けた青年が先生として活躍しています

P-MAC は2012～15年にかけて、現地 NGO「アンコール障がい者協会 (AAD)」がおこなう木工彫刻トレーニングを資金面で支援しました。この期間中にのべ12人がトレーニングを受け、彫刻家として働いたり就職した人もいます。

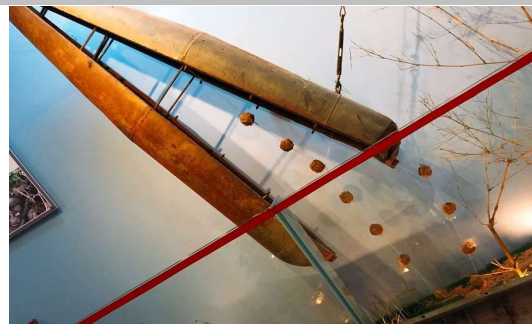
リム・リエン (26) もトレーニングを受けた1人です。1才でポリオを発症して脚に障がいが残ったため、家にこもりきりの生活をしていましたが、20才の時にトレーニングを開始しました。2017年からは彫刻の先生として4人の障がい者に教えています。彼らもまた、障がいのために仕事につけなかったり、貧しい生活をして来た人たちです。同じ経験をしてきたリム・リエンの姿は訓練生にとっても大きな希望となるはずです。



右がリム・リエン

日本の金融機関がクラスター爆弾製造企業への投融資を停止しました

P-MAC は地雷と同様に戦後も多くの人々を傷つけるクラスター爆弾の廃絶を目指しています。2008年にはクラスター爆弾禁止条約がつくられ、日本もこの条約の加盟国です。2017年5月、日本の4つの金融機関がクラスター爆弾を製造している企業に投融資していることが判明しました。これは条約締結国の中でもっとも多い数でした。そして、この発表後から12月までにすべての金融機関が投融資停止の方針を発表しました。



不発弾として残り多くの民間人が被害に遭う

金融機関の投融資先にクラスター爆弾を製造する企業が入っていることは、私たちのお金によってクラスター爆弾がつくられ人々を攻撃するきっかけをつくることになります。クラスター爆弾を廃絶するためには製造や使用だけでなく、製造する企業への資金を絶つことも重要です。今回の金融機関による投融資停止の決定は、クラスター爆弾を廃絶するための重要な一歩です。

一方、国民の年金を運用する「年金積立金管理運用独立行政法人 (GPIF)」はクラスター爆弾製造企業に投資しています。クラスター爆弾の廃絶をめざすオスロ条約に加盟している日本政府として、禁止兵器の製造や使用につながるお金の流れを禁止する必要があるのではないでしょうか。

ピースボートが国際運営団体をつとめる核兵器廃絶国際キャンペーン (ICAN) がノーベル平和賞受賞

2017年ノーベル平和賞を核兵器廃絶国際キャンペーン (ICAN) が受賞しました。ピースボートはICANの国際運営団体の1つで、ピースボート共同代表の川崎哲がICAN国際運営委員もつとめています。ICANは、100カ国以上にわたる450以上の団体が参加するネットワークで、核兵器禁止条約の成立に貢献しました。被爆者をはじめとした核兵器の廃絶を願う世界中の市民の声と行動が、条約成立の大きな原動力となりました。

ちょうど20年前、地雷廃絶国際キャンペーン (ICBL) がノーベル平和賞を受賞しました。当時、多くの被害者を生み出していた地雷を禁止しようと、世界中の市民が集まってできたのがICBLです。そして、1997年に対人地雷禁止条約が採択され、ICBLはこの年のノーベル平和賞を受賞しました。

世界中の市民の力で成立した対人地雷禁止条約は現在、世界の4分の3以上の国が参加し、地雷の使用や被害者数はこの20年で激減しました。アメリカ、ロシア、中国など、多くの地雷を保有する国は条約に参加していませんが、現在はほとんどの国が使用を停止しています。多くの国が条約に参加することで、地雷は国際的に禁止された兵器となりました。そのような世界の変化が、いかに大国であろうと無視することができない大きな流れとなりました。

核兵器保有国や日本など核兵器禁止条約に反対する国もあり、保有国が参加しない条約に疑問の声もあがっています。しかし世界中の市民が働きかけ、多くの国が参加することで地雷を使えない兵器にした対人地雷禁止条約と同様、核兵器禁止条約には大きな可能性があります。世界中の市民の力によって成立した核兵器禁止条約は、核兵器のない世界への確実な一歩です。

「カンボジアから地雷をなくそう 100円キャンペーン」街頭募金

全国5か所のピースボートセンター（東京、横浜、名古屋、大阪、福岡）で街頭募金活動をおこない、カンボジアの地雷除去支援に充てています。2017年度は全国で合計175回の街頭募金をおこないました。



カンボジア地雷問題検証ツアー

ピースボート地球一周の船旅において、カンボジアの地雷除去現場の視察や地雷被害者との交流、地雷除去を支援した村を訪問するスタディーツアーを実施しています。2017年度は、第94回ピースボート「地球一周の船旅」（4月）と第95回ピースボート「地球一周の船旅」（8月）においてツアーを実施し、のべ47名が参加しました。



なんだろう地雷出前教室・勉強会

地雷問題を多くの人に知ってもらおうと出前教室や勉強会を実施しました。

- 東京都町田市立真光寺中学校で「なんだろう地雷出前教室」（2017年7月）
- 東京YMCA 高等学院で「なんだろう地雷出前教室」（2017年11月）
- 在日本朝鮮留学生同盟で講演会（2017年12月）
- 修学旅行生などの訪問授業受け入れ（通年）



イベントへのブース出展

2018年2月におこなわれた国際協力のお祭り「ワン・ワールド・フェスティバル」（大阪）にブース出展し、100円キャンペーン募金への協力呼びかけや地雷被害者が作成したグッズの販売をおこないました。



地雷除去、地雷被害者支援をおこなうP-MACへのご協力をお願いします

募金活動への参加・「なんだろう地雷出前教室」のご依頼はメールでお問合せください。

E-MAIL : pmac@peaceboat.gr.jp

皆さまからいただいた募金は地雷除去・被害者支援などの地雷廃絶活動に使わせていただきます。

郵便振替口座 00130-3-557600

ゆうちょ銀行 ゼロイチキユウ店（〇一九店） 当座 0557600

加入者名 ピースボート地雷廃絶キャンペーンP-MAC

ピースボート地雷廃絶キャンペーンP-MAC 2017年度活動報告書

発行：ピースボート地雷廃絶キャンペーンP-MAC

編集：森田幸子 発行日：2018年6月28日

[お問い合わせは下記までお願いします]

〒169-0075 東京都新宿区高田馬場3-13-1-B1

TEL : 03-3363-7561 FAX : 03-3363-7562

E-MAIL : pmac@peaceboat.gr.jp

URL : <http://peaceboat.org/projects/pmac>